コミュニケーションはしたほうがお得！？

心理学マンガ教材

心理学紙芝居

中小企業

A部長

こちらは、Ａさんです。

Ａさんは、とある中小企業で部長職として、毎日を一生懸命がんばっていました。

実は、このＡさんには、ある悩みがあったのです。

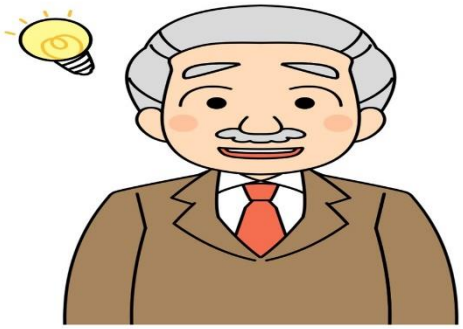
『うーん、最近、なんだか、社員同士のコミュニケーションが増えてきたみたいで、社内がにぎやかになってきたのは良いのだけれど、逆に、困ることもあったんだよなぁ。

先日、新入社員の若者たちが、とても仲良しなのは良いんだけど、お店に、お客さんが入ってきてもおしゃべりし続けていたんだよな。それで、お客様に「いらっしゃいませ」っていうのが、だいぶ遅れたのをたまたま目撃しだんだよなぁ。

しかもさ、そのあとも、またおしゃべりが始まってさ、店員がおしゃべりし続けているもんだから、お客さんが逆に気を使って、お会計しづらかったと思うんだよね』

『仲が良すぎて、いろいろ、社内のルールをナアナアにして、ルール違反を注意しなくなっちゃうのは、良くないことだと思うんだよな。難しいなあ。

やっぱり、あんまり、社員さん同士のコミュニケーションが増えて、仲良くなりすぎるのも、良くないのかなぁ。でも、ギスギスしたり、ピリピリしたりするような会社にはしたくないとも思うんだよなぁ。いったい、どうしたら良いのだろうか？』



『そうだ、先日、我が社の、人財育成の社員研修を担当してくれた研修講師の先生に、聞いてみよう』

『どうも、Ａ部長、いつもお世話になっております。　今日は、どうされましたか？』

『どうも、Ｂさん、いつもお世話になっております。はい、今日は相談したいことがありまして、というのも、うちの会社、最近、社員同士のコミュニケーションが増えてきて、にぎやかになってきたので、これはこれで良いことだと思ったんですけど、今度は、逆に仲が良すぎるのか、なあなあになってきていることが増えたようで、ルール違反とかをお互いに注意できなくなったりしてしまうこともありまして。

　結局、どっちもどっちで難しいと思っているんです。やっぱり、職場って、社員さん同士がなあなあになってきてしまうくらいなら、コミュニケーションが多い明るい雰囲気よりも、ピリピリしている雰囲気のほうが、良いのですかね？』

『うーん、なるほど、それはまた悩ましい問題ですね。こればっかりは、職場によって、会社によって、様々なケースがあるので、なんとも断言はできないのですが、こういったご相談があった際に、よくお伝えしている心理学の実験や研究結果があるので、今日は、それをお伝えしても良いですか？』

『はい、ぜひ、お願いします』

職業的に非常に成功
引退時期
１０００人超の男女
インタビュー
モチベーションは？

金銭的報酬や
社会的地位より

『仕事上の友人との絆』

（出典「幸福優位７つの法則」
ショーン・エイカー：徳間書店）

金融サービス会社
６０支店　３５０人
チームの業績の良さ
⇒お互いを
どう思っているか？

（出典「幸福優位７つの法則」
ショーン・エイカー：徳間書店）

『では、まず、一つ目の実験・研究データをお伝えしますね。
　職業的に非常に成功していて、引退の時期に近づいている１０００人を超える男女にインタビューした調査があるそうです。
　そこで、仕事をする上で何が一番のモチベーションになったかを尋ねたそうです』

『すると、その結果は、なんと、金銭的報酬や社会的な地位よりも、仕事上の友人との絆という答えが圧倒的に多かったそうです』

『なるほど、そうなのですね。成功した先人の方々が、仕事上の友人との絆がモチベーションになっていたと考えると、やっぱり、職場の仲間との関係性とか、コミュニケーションをとることって、大事だなあと思いました』

『はい、わたしも、これを聞いて、やはりそう思いました』

『そして、二つ目の実験・研究データをお伝えしますね。
　ある金融サービス会社の６０支店で働く３５０人を対象として行われた研究では、チームの業績の良さは、メンバーがお互いをどう思っているかということに影響されるという結果が出たそうです。
　メンバー同士の仕事以外のつきあいを奨励したり、直接顔を合わせる機会を増やしたりすると、帰属感が増し、活力が高まり、長時間仕事に集中できるようになるという結果が出たそうです』

『なるほど、そういった結果が出たのですね。そうすると、やはりますます、社員さん同士のコミュニケーションが良くなることは、みんなにとって良い事だと思えますね』

ギャラップ社
５００万人
職場で気心知れた友達
３人以上いる人
といない人

『はい、そうですよね。さらに、もう一つ、アメリカの調査会社であるギャラップ社が５００万人を対象にした調査によると、職場で気心知れた友達が３人以上いる人と、いない人とでは』

⇒人生の満足度２倍

職場に最高の友達がいる
⇒モチベーション８倍

（出典「コミュ障でも５分で増やせる超人脈術」
DaiGo著：マキノ出版）

『人生の満足度に２倍の差があったそうです。
　さらに、職場に最高の友達がいると思う人は、仕事のモチベーションが８倍になっていたそうです』

『なんと、そうなのですか、たしかに、やっぱり、社員さんには、仕事のまえに、まず一人ひとりがそれぞれの人生の満足度がなるべく高くなるようになってほしいと思いますし、そのうえで、モチベーションが高まって、会社にも良い影響を及ぼしてもらえたら、みんなが得する状態になりますよね』

研修講師

Bさん

『はい、そうですね。他方で、さきほど言われたように、決まり事を、ナアナアにしてしまうのは良くないので、そこはきっちりと決まり事・ルールは守るべきで、それぞれ、別々に、色々対策を考えても良いのかもしれませんね。
　残念ながら、すべての職場に一律に活用できる完璧な方法などは、誰にもわかりませんので、職場ごとに、試行錯誤しつづけていく必要があるのかなと思っています』

『なるほど、そうですよね。やっぱり、コミュニケーションはしたほうが、一人ひとり、個々人にとっても、また組織にとってもお得だと思いました。ありがとうございます。がんばります』

＜参考＞
「コミュニケーションは大切にしたい・・」
「決まり事がナアナアになってしまう・・」
「どう対処すべきか悩ましい・・・」

人財育成の場面でよくあるお悩みについて、どのように支援していくかはケースバイケースのため、誰にも正解のわからないことであり、悩ましい問題であると思います。

そのような場面で、一つの考え方として、心理学の実験をご紹介して、参考にしていただくというアイデアもあると思います。

そこで、今回は、「幸福優位７つの法則」ショーン・エイカー（徳間書店）、ならびに「コミュ障でも５分で増やせる超人脈術」DaiGo（マキノ出版）に掲載の実験データをご紹介させていただく物語を創作しました。

仕事上の友人とのきずな、つながりを大切にすることが、個々人にとっても、また組織にとっても有益であるということは、素朴に納得しやすいお話であると思い、ご紹介させていただきました（この物語は制作時点の情報に基づいているため、最新情報の確認を推奨します。）。